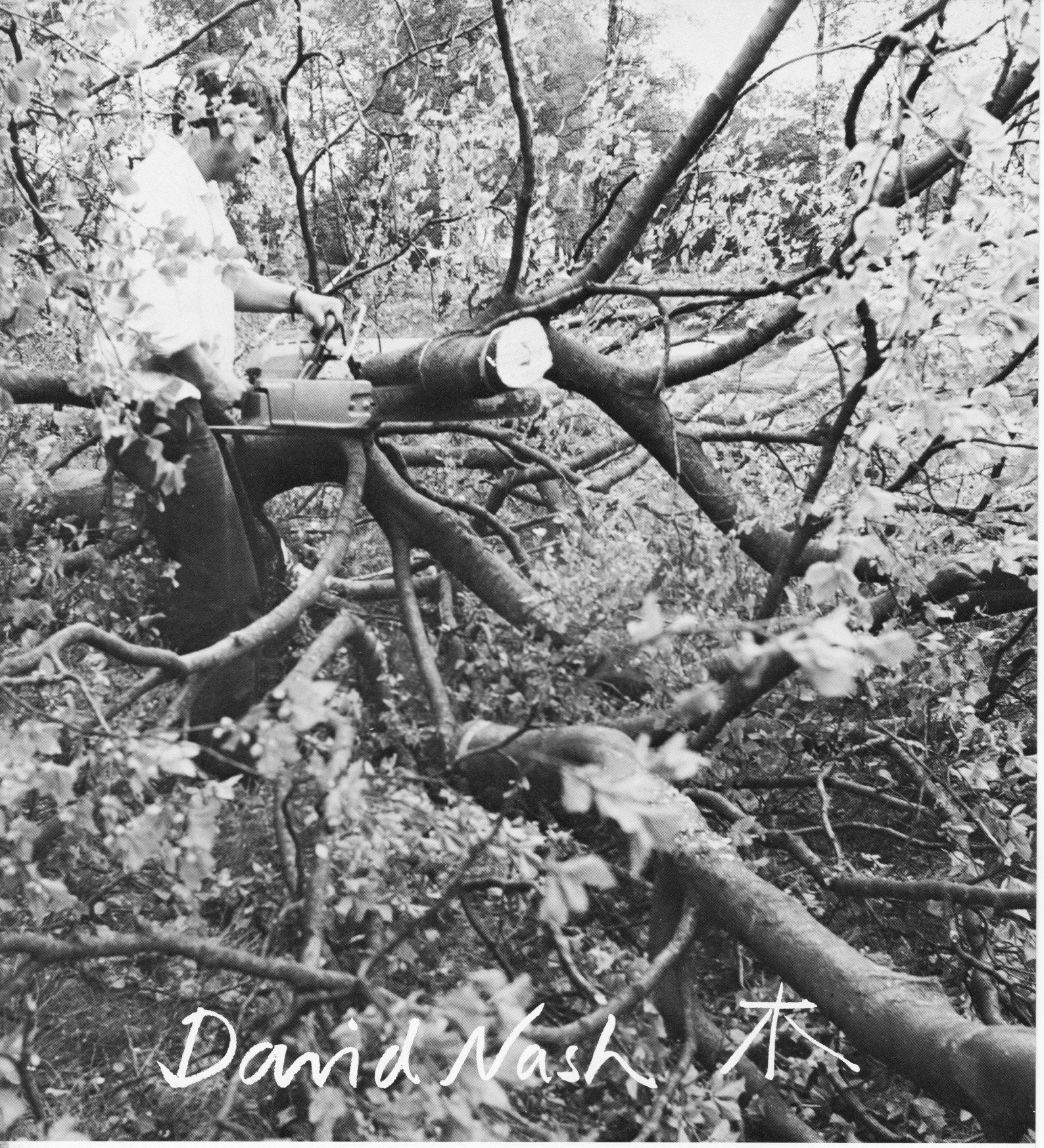


デビッド・ナッシュ展

デビッド・ナッシュ展
DAVID NASH

1984年11月26日(月)～12月15日(土)　日曜休廊

フィリップ・キングが,「今日のイギリス美術」展(1982)を栃木県立美術館に見にきた時，デイヴィッド・ナッシュの大作「ウォーター・ウェー(水路)」を館長室から見おろして，ニコニコ笑いながら，ジェスチュアをまじえつつ，いかにも唐突に言ったものである。「ナッシュのあの作品は，男女両性だね。初めのところは女がこんな風に座ってる感じだし，最後のところは男が股を開いているようで……」。私はその時、キングとは初めてだし，彼がかなりの思索家で理論家であることも飯田善国などから聞いて知っていたので，いくぶん緊張気味だった。そこへ挨拶もそこそこに，いきなりこの発言なものだから，私もいささか面食らったのである。ロイヤル・カレッジ・オブ・アーツの彫刻部主任教授のキング先生も、たしかにその名にふさわしく高度な知識人だが，いつでもどこでも突如としてユーモラスになり得る人物であることは，あとで彼のロンドンの居宅を訪ねたり，彼の車に乗って郊外のアトリエを見に行ったりして，とくと知ることができた。「唐突に」とか，「突如として」とか，私にはそう思えるのだが，実は，彼にそんな意識はないらしく，ごく自然にユーモラスな話も真面目な話も相互に往き来をしているらしいのだ。などと，さも事ありげに挙げつらって言っているのがどうかしているのであって，キングに相互の区別は本来ないのだ，と言った方が正しい。

どうやらナッシュも同様らしく，彼の意識の中では，したがって彼が物と接する接し方の上でも，また当然のことながら彼の作品の中でも，ユーモアをユーモアとして格別分け距てて区別している様子がないのである。「ウォーター・ウェー」が，両性的だといったことは，普通の人はまず気づかないことだし，私も，この作品のインスタレーションに終始立合っていて，ある時ふと気づいて彼にたずねたら，その時初めて「そうだ」と頷いたので，そこで彼が知っててやっていることが分った程度で，そのことを彼は声高にことさら人に知らせようとしていない。「ウォーター・ウェー」は「ウォーター・ウェー」で，字義通り他に楽しむ部分がいくらもあるのである。しかし，フィリップ・キングがいきなりそのことに触れてきたのは少々驚きであり，と同時に，イギリス人特有のユーモアのあり方について考えさせられもしたのである。「今日のイギリス美術」展に出品されていた多くのイギリス人作家の作品の中に、ユーモラスな気配がどことなく漂っていて，それが明らかにイギリス現代美術の特色をなしていることは，いろいろ話題になっていたところである。

ところで，ナッシュのユーモアだが，彼の今回の日本訪問制作プロジェクトの一つに，宮城県の美術館が計画したワーク・ショップによる現地制作があった。仙台市から西北へ約50㎞ぐらいのところに，舟形山(ふながた)というのがあって，その山の麓の「ふながた荘」という古風な宿屋に一家4人で宿泊しての現地制作だったが，そこで作った主要作品の一つに，「Ship Shape」と名付けられた大作がある。言うまでもなく，舟形山，「ふながた荘」からく

自然とユーモア

大島清次　SEIJI OHSHIMA

る「Ship Shape」，つまり「舟形」だが，その「舟形」に強烈なユーモアが装塡されていることを，これまた偶然に知ることができた。

彼が徹底した現地制作を貫くようになったのは，そんなに古いことではなく，1980年のヨークシャー彫刻公園でのプロジェクトあたりからである。そこで彼は言っている。「かつて早い時期には，私は製材工場で作られた規格品の木を使っていた。しかしやがて，その木は自らがどこから来て，どこへ行くのか，何も語りはしないことに気付いた。いま私は樹木のところへ行き，その樹の時間と空間に応え，その樹がそこにある環境，私がそこにいる環境に応答することで，ずっとうまくやっている。樹の大きさ，寒さや湿気，家からの遠さ，すべてが情況を形づくっている。樹は新しい可能性の源となる」。まさしく作品「舟形」がそのことを如実に立証しているのだが，問題はもう少し込入っていて，単なる言葉合わせの命名にかかわる次元にとどまる問題では勿論ない。ことは造形にかかわる問題であるから，命名より先にまず造形があるのであって，造形を通じてむしろ命名は即興的に突如として訪れる。一種のハプニングだが，これをナッシュは「Spontaneity」と言う言葉を使って非常に大事にしている。これは，「自然な感性や，努力や束縛のないインパルスからもたらされる，あるいはそれにもとずく行為，もしくは内部的な原因を通じて発生するもの」で，そのことこそが，人間の本性（アイデンティティー）から自発的に自然に出てくるものなのだ，と見ているのである。

「舟形」の強烈なユーモアというのは，美術館の担当学芸員が彼の仕事を手伝っていて，その「舟形」の真中の二つに割れてくびれたところを斧を振るって一生懸命削っていたものだから，「ずいぶんよく手伝ってくれているね」，とナッシュに私が感心して声をかけたら，「いや，彼はあそこを掘るのが特に大好きでね。あれが女性の性器に似ているもんだから」，といかにも楽しそうにケラケラと笑ったものである。日本語の「舟形」と女性の性器が関連していることは言うまでもないが，英語などではどうなのか，よく調べてはいないが，いろいろある筈である。そうした形や言葉が，人の心の自然な状態の中で，どんどん自由に飛び交い，邂逅し，結び合って，イメージが豊饒に生いきと増殖してゆくことを望んでいるのである。何のことはない，シュルレアリスムの世界である。

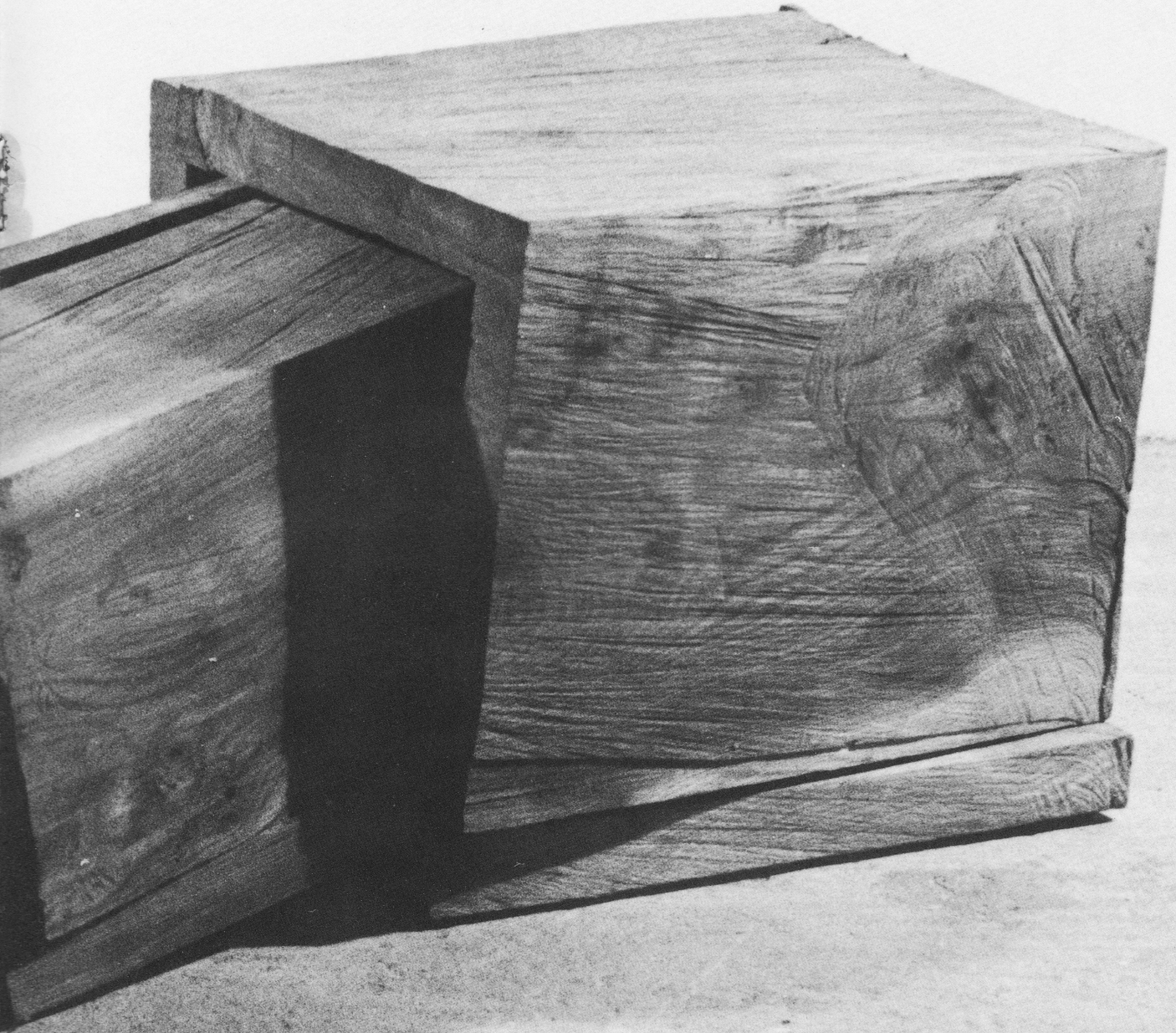
シュルレアリスムはしかし，マグリットのように，絵空事か人工的な作品によって，それを開示して見せる。ナッシュは，それを，多少は手を加えるが，できるだけ自然の造形の中に発見し，引き出して私たちに見せようとしている。本当は自然の中にこそシュル・レール（超現実的）なものが充満しているのだ。日光の彼の宿舎の裏山の頂上は，それが巨大な男性の亀頭を裏側から仰いでいる形に酷似しているところから，金精山（こんせいざん）と呼ばれ，いつ頃からか男根崇拝の壮大な民俗信仰がこの地に定着している。不思議な暗合である。

standing box. 1983
lime 78x30x26

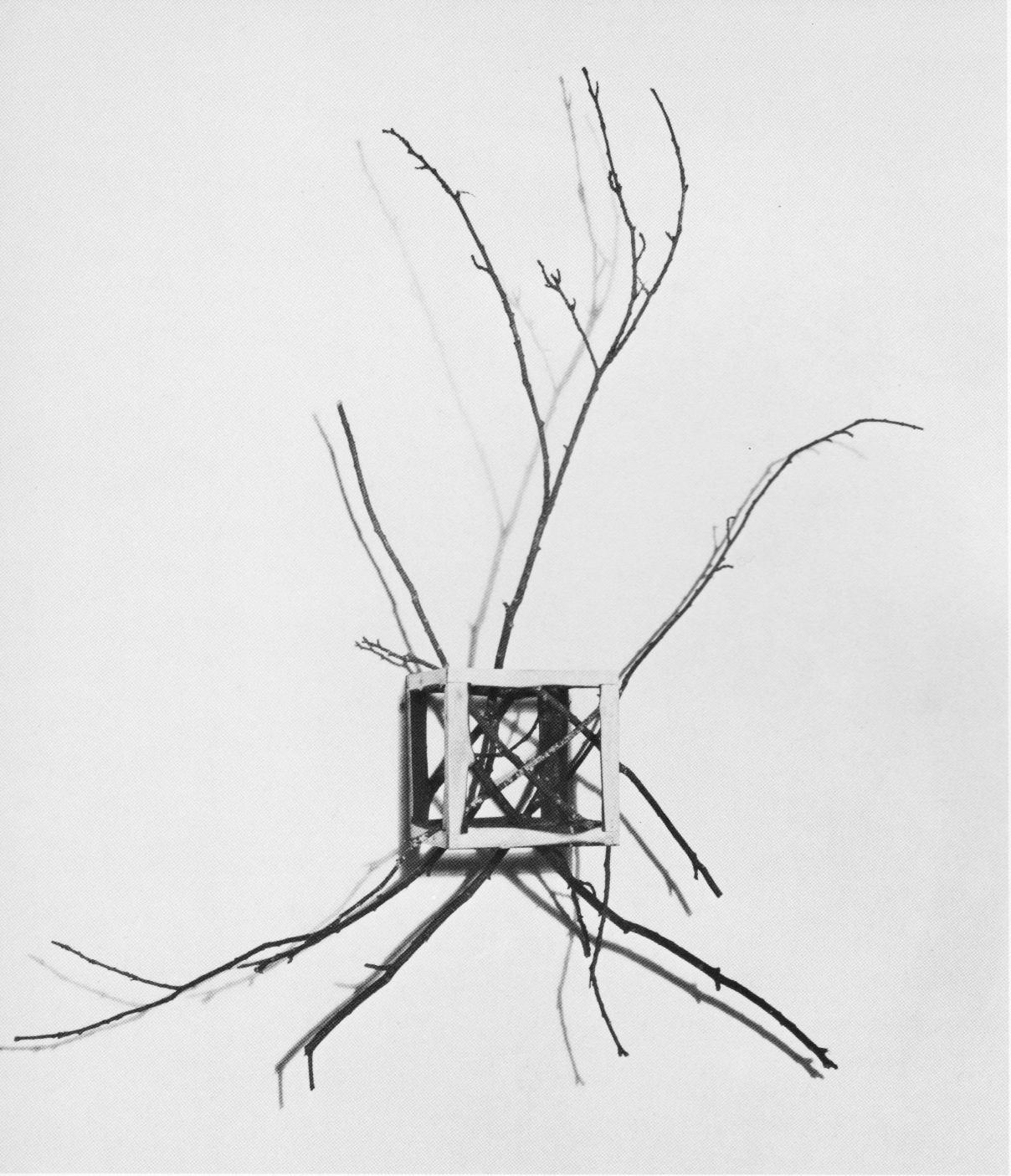
Bucket with a branch 1983
ash 102 x 15½ x 23

Branch table 1983
ash 94½ x 24 x 32

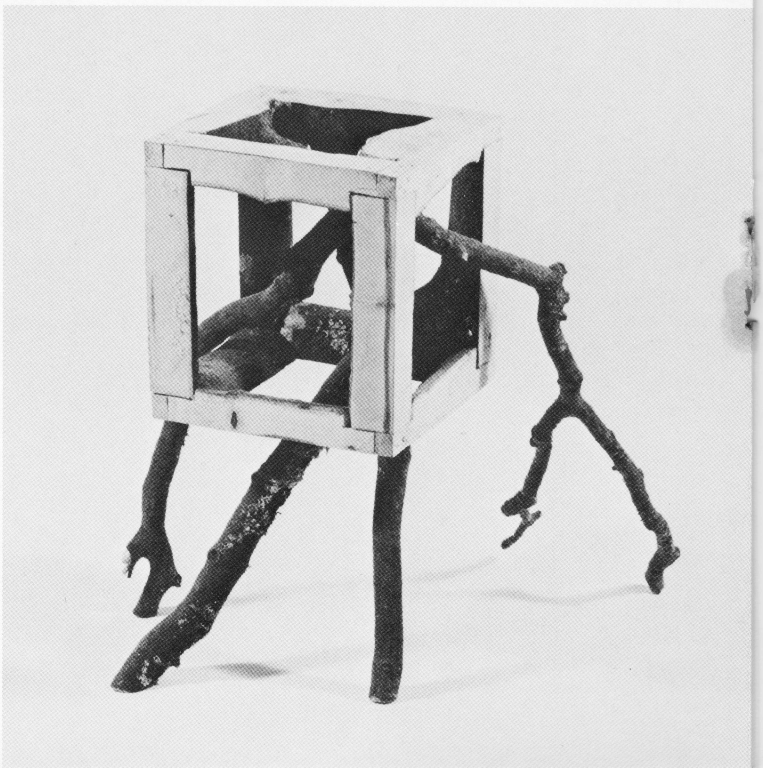
small maquette chair 1984
ash 22 x 16 x 18



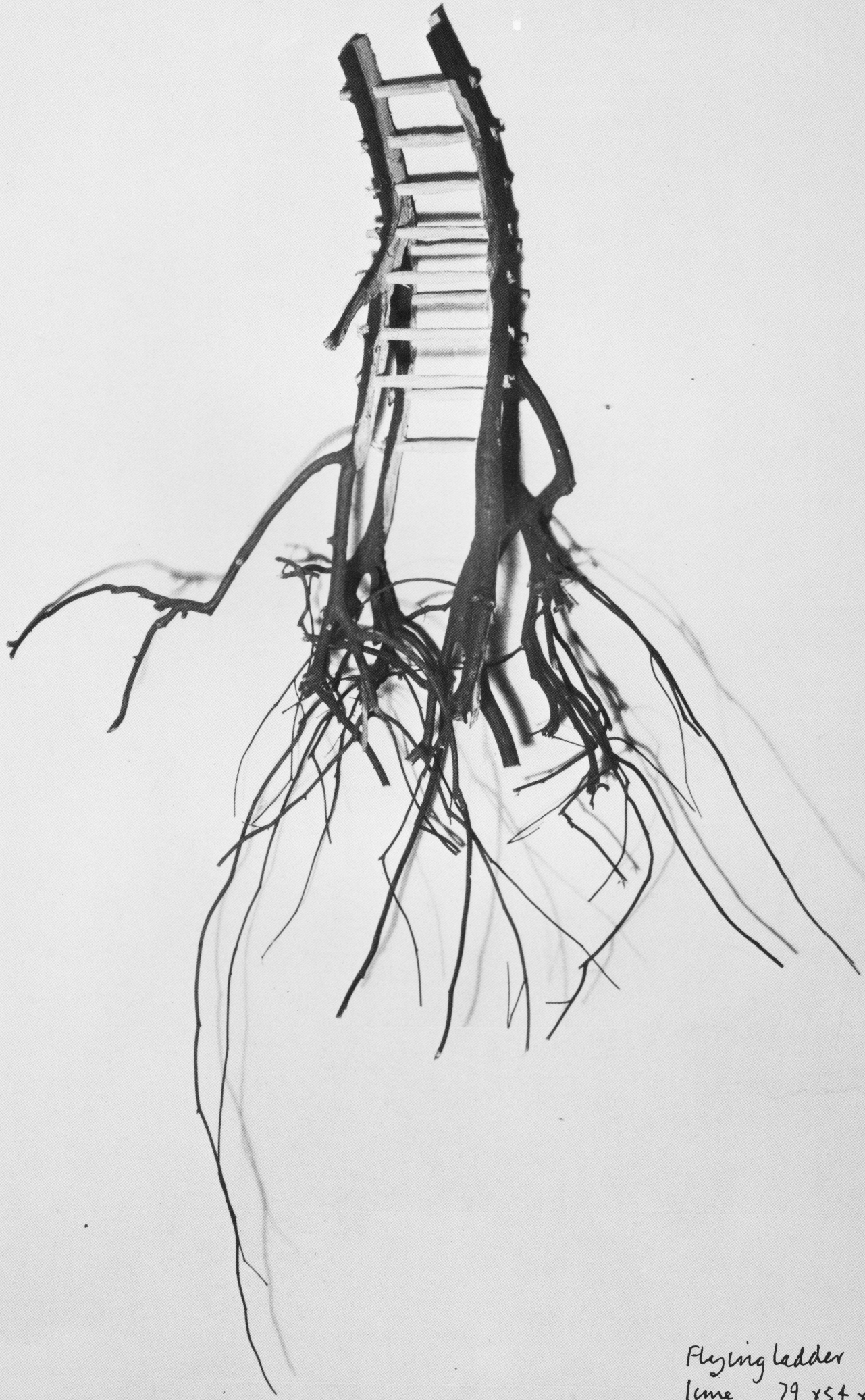
Extended block 1983
elm 23 x 22 x 66"



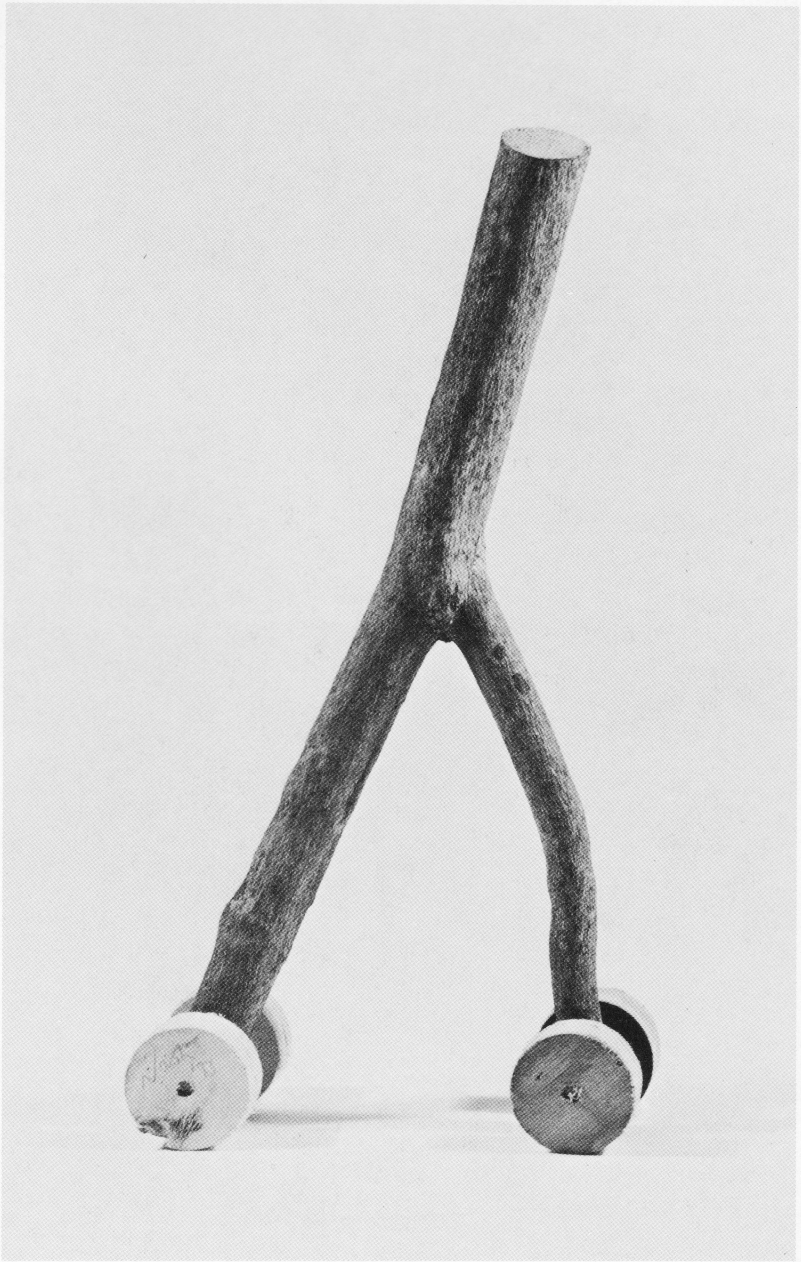
Chestnut branch cube 1982
Chestnut 56 x 46 x 12 1/2



small sycamore cube 1982
sycamore 13 1/2 x 15 x 13

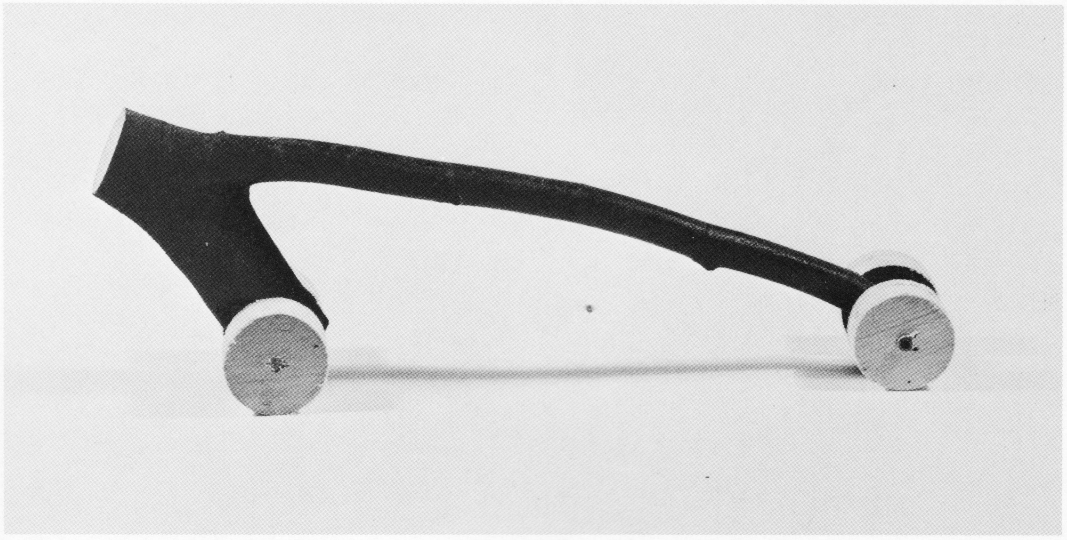


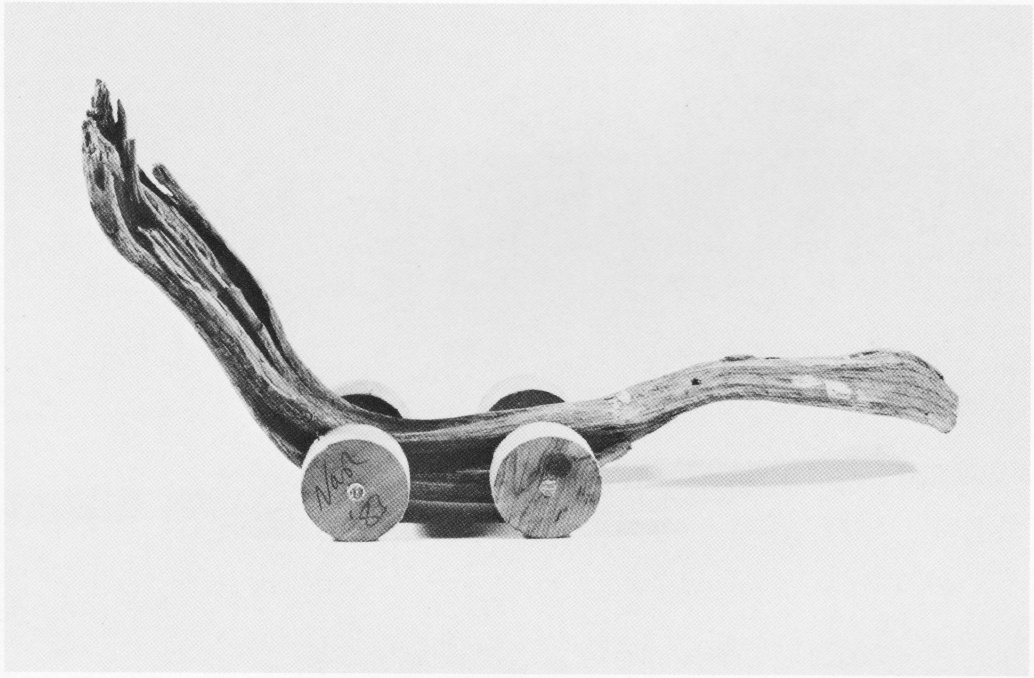
Flying ladder 1983
lime 79 x 54 x 16

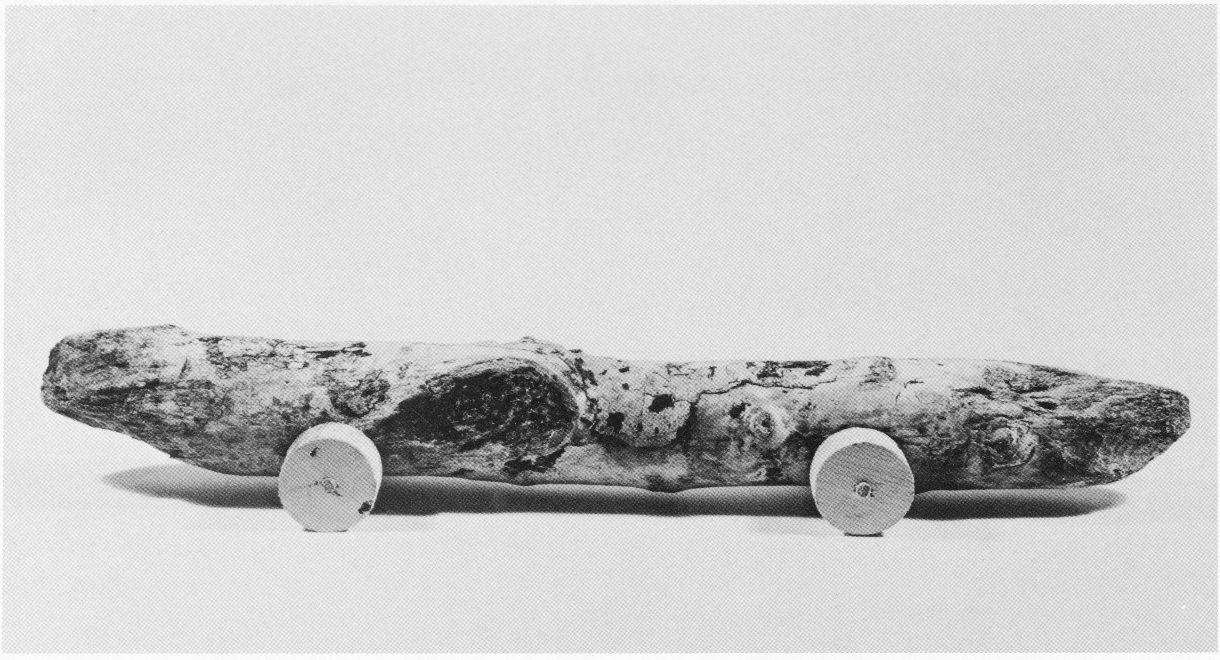


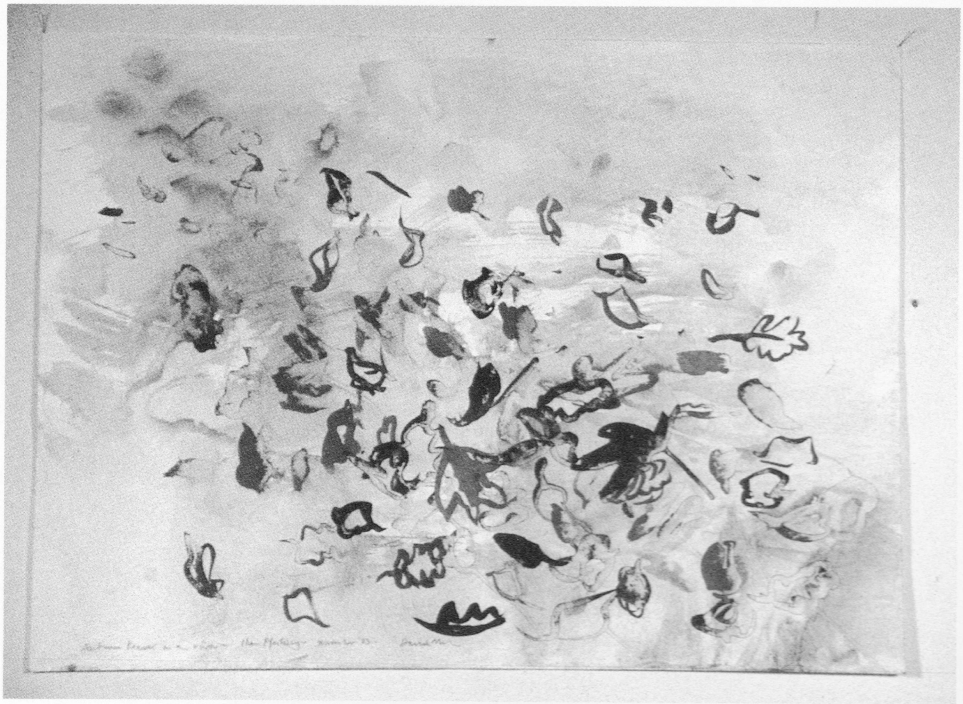
Five wheeler 1983.

strider 8 x 9 x 5
Giraffe . 20 x 10 x 4
Shillelagh 7 x 16 x 4
bird 11 x 21 x 4½
whale 4 x 30 x 6

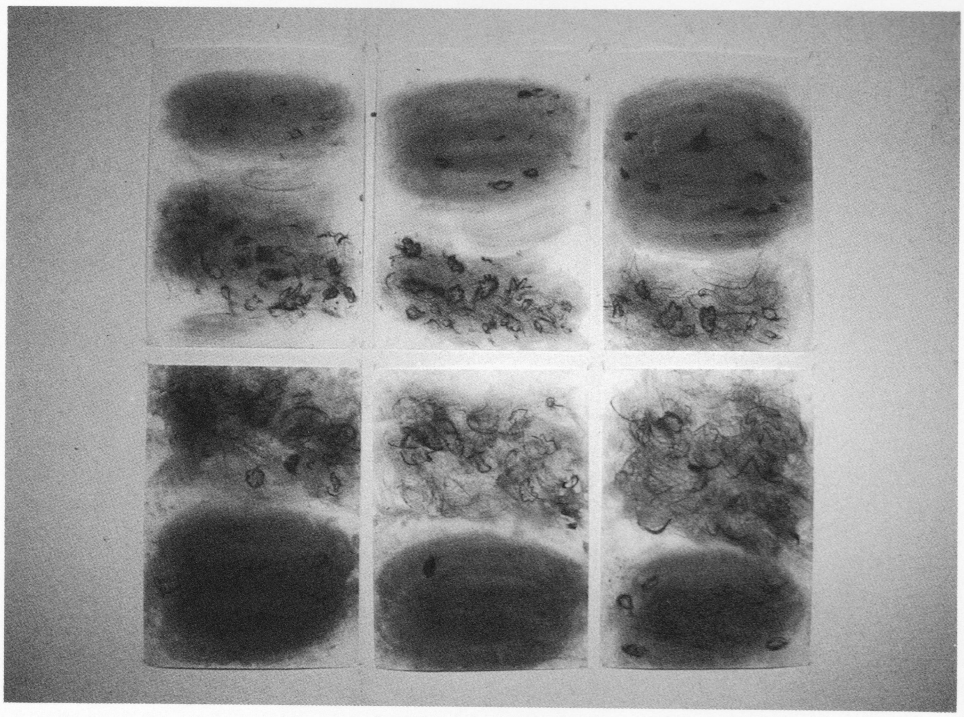








Leaves in the river



Leaves in the river

Major Public Collections.

Guggenheim Museum	New York
Tate Gallery	London.
Kröller-Müller museum.	Holland
Metropolitan Museum	Tokyo
Museum of Fine Arts	Tochigi
Scottish Modern Art Museum	Edinburgh
Frans Hals Museum	Holland
British Council	London.
Yorkshire Sculpture Park.	Yorkshire
Arts Council of Great Britain	London.
Southampton Art Museum	Southampton.

Publications

1976	"Loosely Held Grain"	Arnolfini Gallery, Bristol
1978	"Fletched over Ash"	Artist.
1980	"Wood Quarry"	Elise Meyer Gallery N.Y.
1982	"Wood Quarry - Otterlo": Kröller-Müller Museum.	
1983	"Sixty Seasons"	Third Eye Centre Glasgow.
1984	"David Nash, Inochi, Katachi" Tochigi Prefectural Museum of Fine Arts.	

Major Group Exhibitions.

Hayward Gallery, London "The Condition of sculpture"	1975
Guggenheim Museum, New York "British Art Today"	1980
Royal Academy "British Art Today"	1980
Whitechapel Art Gallery London. "British (20 Sculpture"	1981
Tokyo Metropolitan Museum and Japan tour. "Aspects of British Art Today"	1982
Hayward Gallery, London. "The Sculpture show"	1983
MOMA, New York. "Survey of recent trends in International Art"	1984
Dublin, "Rosc"	1984

Major one man exhibitions.

Elijabeth Hall, York "Briefly Cooked Apples"	1973
Arnolfini Gallery Bristol "Loosley Held Grain"	1976
Serpentine Gallery London	1976
Air Gallery London. "Fletched over Ash"	1978
Elise Meyer Gallery New York	1980
Gallery Cavalino Venice	1980
Elsie Meyer Gallery New York	1982
Kröller Müller Museum Holland "Wood Quarry"	1982
Yorkshire Sculpture Park	1982
Duke street Gallery London "Stones and Hearths"	1982
Kilkenny Modern Art Gallery and Irish Tour	1982-3.
Edinburgh and Glasgow and British Tour "Sixty seasons"	1983
Tochigi Prefectural Museum of Fine Art "Inochi, Katachi"	1984
Kamakura Gallery Tokyo	1984.

leaver with river detail

1945年英国サリーに生まれる。
1967年以降ノースウェールズのブライライ・フェスティニョグに住んで制作している。

デビッド・ナッシュ展カタログ
発行日　1984年11月26日
発行者　中村路子
製　作　鎌倉画廊

鎌倉 コンテンポラリーアート 画廊
中央区銀座7−10−8 平方ビル1F
TEL. 03−574−8307

Kamakura Gallery 7-10-8Ginza, Chuo-ku, Tokyo Tel. 03-574-8307